

放射性物質吸収抑制対策を中止すると オーチャードグラスの放射性セシウム濃度は上昇する

福島県農業総合センター畜産研究所 飼料環境科

事業名 放射性物質の除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質の吸収量の把握

研究課題名 飼料作物、家畜における放射性物質の吸収量の解明

担当者 片倉真沙美・木幡和宏・中村フチ子・菅野登

I 新技術の解説

1 要旨

除染後、カリ増肥による吸収抑制対策を実施した牧草地において、カリ施用量を通常量(5kg/10a)に戻したとき、急激に土壤の交換性カリ含量は減少した。また、オーチャードグラスの放射性セシウム濃度は、カリを 15kg/10a 施用した区に比べて二番草以降で有意に高くなつた。

(1) 早春、刈り取り毎のカリ施肥量を 5kg/10a(カリ標準区)に減らすと、土壤中交換性カリ含量は急激に低下し、カリ施肥をしない区(カリなし区)とほぼ同じレベルで推移した(図1)。

(2) 牧草の放射性セシウム濃度は、二番草以降でカリなし区とカリ標準区が、カリ3倍区より高くなつた(図2)。

2 期待される効果

生産者に吸収抑制対策の必要性を周知できる。

3 活用上の留意点

(1) カリ増肥した牧草は、ミネラルバランスに留意して家畜に給与する必要がある。

(2) 本試験は、土壤放射性セシウム濃度約 200Bq/kg のほ場で実施した。

II 具体的データ等

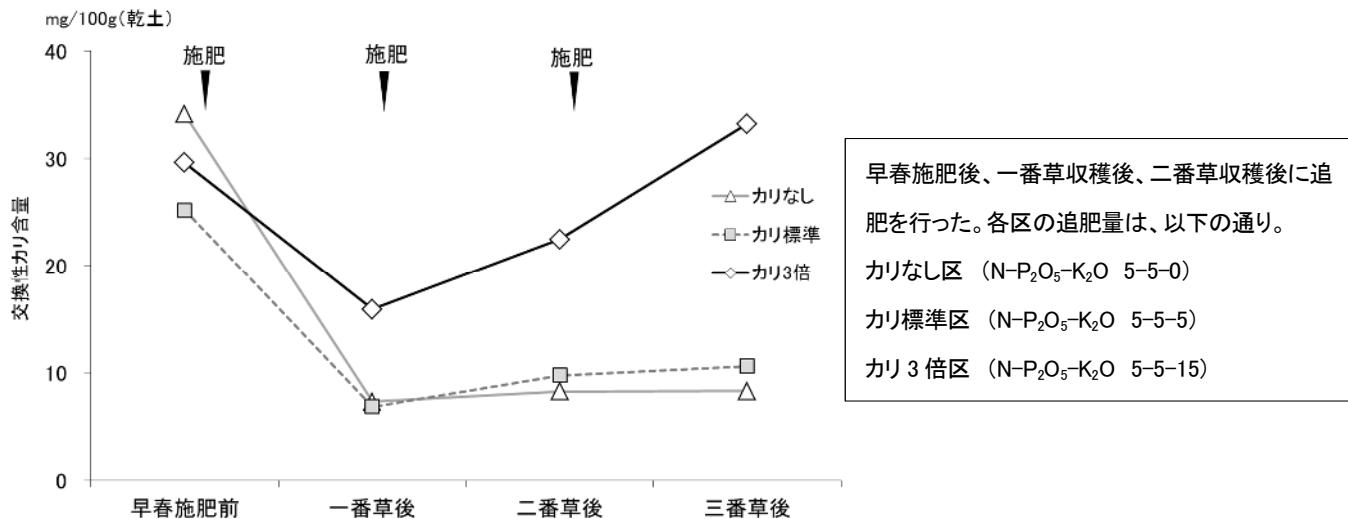


図1 土壤(0-15cm 深)の交換性カリ含量の推移

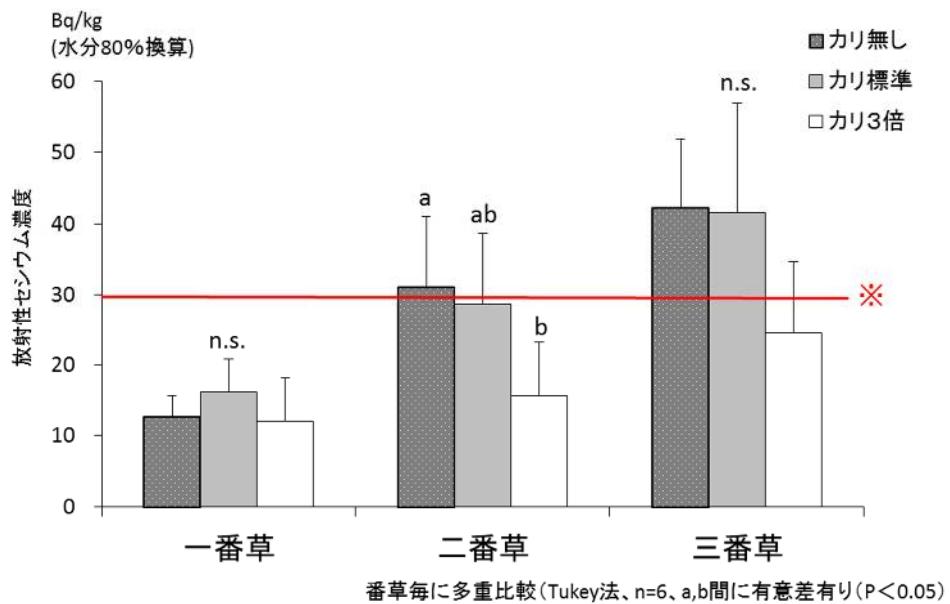


図2 番草毎のオーチャードグラスの放射性セシウム濃度

※酪農生産者団体が定める乳牛の給与基準値

その他

1 執筆者

片倉 真沙美

2 実施期間

平成27年度

3 主な参考文献・資料

なし